

第49回 経営協議会 議事要録

日 時 平成26年6月26日(木) 13時55分～15時20分

場 所 事務局第二会議室

出席者 宮田亮平 学長、馬場 剛 理事、横里幸一 理事
保科豊巳 美術学部長、岡本美津子 大学院映像研究科長
石田義雄 委員、高階秀爾 委員、滝 久雄 委員
遠山敦子 委員、中村胤夫 委員、福井俊彦 委員

陪 席 監事：梅崎 壽 監事、金井 満 監事
渡邊健二 理事、北郷 悟 理事、越川倫明 副学長、松下 功 副学長
宮廻正明 社会連携センター長 [学長特命(社会連携担当)]
三田村有純 留学生センター長 [学長特命(国際交流担当及び留学生担当)]
大角欣矢 附属図書館長、関 出 大学美術館長

欠席者 澤 和樹 音楽学部長
桐山孝司 学長特別補佐(キャンパス将来構想担当)

○ 議長から審議に先立ち、経営協議会の新たな学内委員の紹介があり、引き続き馬場理事から事務系幹部職員の異動について報告があった。

- ・ 松下 功 副学長(澤 和樹 前副学長の後任)
- ・ 澤 和樹 音楽学部長(植田一穂 前音楽学部長の後任) / 本日欠席
- ・ 馬場 剛 理事(畑中裕良 前理事の後任)
- ・ 梅崎 壽 監事(中島尚正 前監事の後任)

- ・ 橘 芳久 戦略企画課長
- ・ 山中和則 大学美術館事務長(村松広志 前大学美術館事務長の後任)

議題

1. 本学における大学改革・機能強化等の方向性及び平成27年度概算要求に係る重点事項について

2-1 本学における大学改革・機能強化等の方向性について

議長から標記のことについて提案があり、渡邊理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

2-2 平成27年度概算要求に係る重点事項について

議長から標記のことについて提案があり、馬場事務局長から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

2. 平成25年度財務諸表(案)について

議長から標記のことについて提案があり、馬場理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

3. 平成25事業年度に係る業務実績に関する報告書(案)について

3-1 業務実績作成の考え方

3-2 全体的状況_特記抜粋

3-3 評価達成状況

3-4 実績報告書

議長から標記のことについて提案があり、馬場理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

1. 東日本大震災により被災した平成26年度東京藝術大学入学志願者の検定料免除に関する要項の一部を改正する要項の制定について(案)

標記のことについて、越川副学長から資料に基づき報告があった。

2. スーパーグローバル大学創成支援事業について

標記のことについて、戦略企画課長から資料に基づき報告があった。

3. その他(昨今の本学をめぐる諸情勢について)

○ 附属図書館長から、机上資料「附属図書館概要」、「NHK長野放送局「名曲 世紀をこえて ～発表から100年 朧月夜～」」及び「平成26年5月24日付日経新聞の記事」について報告があった。

○ 大学院映像研究科長から、机上資料「カンヌ国際映画祭短編映画部門にノミネートされた「八芳園」」について報告があった。

・ 7月23日(水)午後6時から同短編映画の上映会が行われる旨の報告があった。

○ 担当副学長から、机上資料「フォーカス [建築] 東京藝術大学4号館改修(東京都台東区) - 既存の躯体の内側に木のホールを浮かす -」について報告があった。

○ 担当副学長から、机上資料「藝心寮 東京藝術大学 [施設概要]」について報告があった。

○ 経営協議会委員から、「夏の芸術祭一次代を担う若手作家作品展」について報告があった。

○ 大学美術館長から、「東日本大震災復興祈念・新潟県中越地震復興10年 法隆寺一祈りとかたち」展の終了について報告があった。

その他：(ご助言、ご提言等)

学外委員からの主な意見

○ 国立大学改革プランを踏まえた大学改革等について、これを作る過程において、学内の先生方との摺り合わせや出された意見など、どのような議論がなされたかが分かると、

より理解しやすい旨の発言があった。

- ・ワーキンググループに委託された形で、急ピッチに作業を進め作成したこともあり、個々の教員へのフィードバックはしていない。ただし、情報はその都度伝えることとし、学内で全職員を対象に説明会も実施した。
- 今回示された大学改革案は、本気度があり、英知が集まった内容で、素晴らしいものと思うが、膨大な構想であるため、今後は、焦点を絞って、どの部分を、どこで、何をして行くかが、課題となる旨の発言があった。
- 大学改革等の方向性は前向きでよいと思うが、強いて二点だけ掲げたい。ひとつは、文中に「グローバル化に対応」という文言があるが、グローバル化とは対応しては負けで、成功している民間企業は、グローバル化を先取りして行動しているところである。その意味で「対応」という言葉は受け身であり、先手を打つイメージがなく、ふさわしいものと思えない。また、「年俸制」についても記述があるが、これを行うには、各自の今後のパフォーマンスが伸びるものか、減るものかをも評価できる、きちっとした「評価システム」が必要である旨の発言があった。
- ・「対応」を、「先導」、「リード」等の言葉に置き換えたいと考える。
- 確かに、グローバル化をリードするのが藝大であると考え。最近MITは芸術文化を必須単位とした。そういうカリキュラムを取っていない者は、ある程度のところで止まってしまう。そういった意味でも芸術文化について考える時期だと考えるので、藝大には期待している旨の発言があった。
- 図書館の貴重資料展には、素晴らしいものがあった。ただし、展示場はさびしいと感じた。今後の課題と考える旨の発言があった。